

中国日本学研究优秀

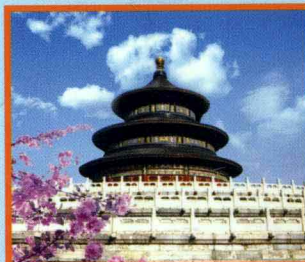
硕士论文『卡西欧杯』

获奖

论文选

(三)

北京日本学研究中心◎编



學苑出版社

中国日本学研究优秀硕士论文 “卡西欧杯”获奖论文选

(三)

北京日本学研究中心 编

學苑出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

中国日本学研究优秀硕士学位论文“卡西欧杯”获奖论文集. 3/
北京日本学研究中心编. —北京: 学苑出版社, 2011. 9
ISBN 978 - 7 - 5077 - 3857 - 5

I. ①中… II. ①北… III. ①日本—研究—文集
IV. ①K313.07 - 53

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2011) 第 190912 号

责任编辑: 韩继忠

出版发行: 学苑出版社

社 址: 北京市丰台区南方庄 2 号院 1 号楼

邮政编码: 100079

网 址: [www. book001. com](http://www.book001.com)

电子信箱: [xueyuan@ public. bta. net. cn](mailto:xueyuan@public.bta.net.cn)

销售电话: 010 - 67675512、67678944、67601101 (邮购)

经 销: 新华书店

印 刷 厂: 永恒印刷有限公司

开本尺寸: 787 × 1092 1/16

印 张: 24. 5

字 数: 500 千字

版 次: 2011 年 9 月第 1 版

印 次: 2011 年 9 月第 1 次印刷

定 价: 50.00 元

第三届中国日本学
“CASIO杯”优秀硕士论文奖
颁奖典礼

主办单位：教育部高校外语专业教学指导委员会日语分委员会
中国日本教学研究会 北京日本研究中心
协办单位：CASIO（卡西欧）贸易（中国）有限公司



获奖学生、学校代表、评审委员与嘉宾合影

**此论文集的出版得到
卡西欧（上海）贸易有限公司的资助**

主 编 徐一平

执行主编 潘 蕾

前書き

中国日本語教学研究会、教育部高等教育外国語専攻教育指導委員会日本語部会、北京日本学研究所センターの共同主催による『第三回中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテスト』は、カシオ上海貿易株式会社の多大なご支援と全国各大学の日本語日本文学専攻修士課程の先生たちや学生たちのご協力のもとで、2010年の秋、「北京日本学研究所センター成立25周年記念シンポジウム」開催期間中に行われました。

この修士論文コンテストが初めて行われた2008年には、全国の29大学から33篇の優秀な修士論文が推薦され、二年目の2009年には、全国の34大学から41篇の優秀な修士論文が推薦されましたが、そして、第三回目の2010年には、更に参加大学が増え、全国の39大学から47篇の優秀修士論文が推薦されました。これらの推薦優秀修士論文は、いずれも各大学の教育成果であり、各大学の先生たちが丁寧に指導された研究成果であります。これらの論文に対して、巻末に掲げられた全国各大学や研究所の日本学研究所の専門家による厳しい予備審査と最終審査を通して、一等賞、二等賞、三等賞の論文が決定されたのであります。そして、ここに二等賞以上に選ばれた論文を集め、『中国日本学研究優秀修士論文「カシオ杯」入賞論文集(三)』を上梓することになりました。

特に嬉しいことは、今回の参加大学には、今まで参加された大陸の各大学だけでなく、台湾地域の台湾政治大学と輔仁大学からも論文が推薦され、しかも優秀な成績が収められました。このようにより多くの大学がこのコンテストを通して、修士課程の指導経験を交流し、中国の日本学研究所のレベルを一層高め、より多くの優秀な若手研究者を育てていくことは、正に我々がこのコンテストを企画した初心でありますので、このような喜ばしい局面が迎えられたことに対して、改めて心から関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。

ここ一年の中日関係を振り返ってみれば、一番大きなことはやはり東日本大地震が起きてから、中国の日本に対する支援活動が挙げられるのではないかと思います。中国の言葉には「患難見真情(苦難に会った時に始めて真心が分かる)」という言い方があります。2008年、中国で四川大地震が起きた時も、日本からはいち早くレスキュー隊が派遣され、その隊員たちの活動ぶりに中国人民が感動したのであります。中日両国

は、隣り合った引越しのできない隣国であり、友好的に付き合っていれば、両国ともに発展できますが、敵対的な関係になっていけば、両国ともに損をするような関係にあります。そのような意味で、我々が養成する若手日本研究者は、まだまだ数が少なく、決して多いとは言えません。

ここに掲載する優秀な修士論文は、いずれも中日相互理解を深めるために大きな参考になる素晴らしい作品です。このコンテストが今後継続されていくことは、きっと中日両国の若者の相互理解、ひいては国民全体の相互理解を促進していくに違いありません。

北京日本学研究センター

主任 徐 一平

2011年6月

贺 词

在北京外国语大学成立 70 周年之际,《中国日本学研究优秀硕士论文“卡西欧杯”获奖论文选(三)》与读者见面了,可喜可贺。论文集展示了我国硕士阶段日本学研究的新成果,体现了为本届论文评审、编辑、出版组织付出辛勤劳动的徐一平、谭晶华等教授等以及日本学研究中心工作人员的辛勤劳动。同时,论文集的出版也是向北京外国语大学成立 70 周年奉献的一部值得骄傲的厚礼。在此,谨代表中国日语教学研究会向北外 70 年校庆表示衷心祝贺,向各位评审专家、日本学研究中心的各位,向给予论文评审和文集出版巨大支持的卡西欧上海有限公司,以及积极参与的各参赛学校表示诚挚的感谢!

随着中国日语教育和日本学研究的不断深入,硕士阶段的学习与研究越来越受到瞩目。我国日语、日本文学专业的硕士阶段的教育在最近十年又有了长足的发展,已经有 61 所学校设有硕士课程,硕士生人数迅猛增长。各专业在发扬传统、重视提高硕士生运用日语进行跨文化交际能力的同时,高度重视提高研究日本语言、日本文学,日本社会文化的研究能力,努力在硕士生课程设置、教学改革的基础上,鼓励研究生围绕日本学研究的重要选题开展好研究,写出高质量的论文,机遇喜人。同时,我国的日语、日本文学专业研究生阶段的教育又即将迎来一个新的转型期。其标志之一是随着新一批一级学科博士授予学科和硕士授予学科的增加,从明年开始,硕士和博士招生学校和专业将有大幅度增加;其二是随着高等教育的发展,高等学校录用硕士生作为教学人员的人数剧减,而硕士生人数激增,硕士生的就业问题越来越凸显,挑战严峻。培养学术型硕士和专业应用型硕士是解决问题的尝试之一,但从根本上讲,提高研究生(学术型)的研究水平和创新能力是关键所在。在新的机遇和挑战到来之际,审视各专业的日本语言文学专业的发展,总结经验、提出规范是至关重要的课题。

为此,我格外高度评价《中国日本学研究优秀硕士论文“卡西欧杯”获奖论文选(三)》的出版。因为论文集提供了目前硕士研究生阶段日本学研究的典范论文,体现了硕士阶段教学科研的新的方向,为广大导师指导和研究生撰写论文提供了宝贵的借鉴,会进一步促进硕士阶段研究生论文的写作的规范化,提高论文的学术水准,进而使我国研究生阶段的教育与研究迈向新的台阶。同时,我也高度评价每届“卡西欧杯”全国日本学研究优秀硕士论文大赛的举办。这是我国专业日语教学历史上具有重要意义的一件大事,是我国日本学硕士研究生教育逐步走向成熟的重要标志。这项赛事也日趋成为中国日语教育界重要而且具有权威的大赛之一。

如前所说,中国的硕士阶段日本学教育与研究面临巨大的机遇,也即将面对严峻的挑战。如何抓住机遇,迎接挑战是每一位导师和研究生必须直面的重要课题。衷心希望本论文集的出版,能为关心、参与硕士阶段中国日本学研究的每一位提供一份珍贵的参考,发挥出不可多得的重要作用。

中国日语教学研究会会长 修 刚

2011年7月

寄语(2011)

祝贺《中国日本学研究优秀硕士论文”卡西欧杯”获奖论文选(三)》的诞生!

这本论文集再次展现了我国日语语言文学专业硕士研究生的最新研究成果。语言、文学、文化几个方向的研究既说明了研究生们独立研究和思考的能力,也呈现出他们对于专业现实问题的敏锐性及运用日语表达思想和创见的水平。

当前我们所处的是信息和交通高度发达的时代,随着科技的进步,空间的距离大大缩小,各种文化的融和、交流正日益频繁,但空间距离的缩小并不意味着人们的文化距离和心理距离可在瞬间缩短,在多元文化并存的时代,个人、社会之间,民族乃至国家之间,无不存在着文化差异甚至沟壑,因此,培养研究生们对于专业对象语言国的语言、文学、文化差异的敏锐性,缩短中日文化的距离,发展跨文化交际的能力已成为当今日语研究生教育的迫切需求。

其实,在研究生能力培养考核体系中最具有可度量性的就是学位论文,因为只有通过论文的撰写,研究生们才能深切地体会到创新的含义,从而更有效地锻炼创新的能力。

由衷地希望我国日语专业研究生们在已有成果的基础上,以创新务实的态度、扎实的学风、先进的研究方法、良好的学术道德水准锐意进取,创作出更多的符合专业现实需求的优秀研究成果来!

教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语分委员会主任 谭晶华
中国日本文学研究会会长

目 次

前書き	(1)
賀 詞	(3)
寄语(2011)	(5)

言語研究部門

一等賞

陳燕青	トコロヲの文法化	(3)
-----	----------------	-----

二等賞

叶栩邑	中日翻訳における対等不能に関する一考察 ——受容言語による喚起力の分析を中心に	(45)
-----	--	------

二等賞

王秋霞	構文理論から見る日本語の動詞の項構造 ——使役・受動構文の関連性を中心に	(82)
-----	---	------

文学研究部門

一等賞

簡中昊	大鹿卓の蕃地文学研究	(135)
-----	------------------	-------

二等賞

田 琳	魯迅と周作人の翻訳の比較 ——『現代日本小説集』を中心に	(159)
-----	---------------------------------------	-------

二等賞

王胜群	田村俊子文学に見る〈個〉と〈女〉のジレンマ ——「生血」・「木乃伊の口紅」・「女作者」三作を中心に	(209)
-----	--	-------

社会文化研究部門

一等賞

- 张 炜 西田幾多郎の自己論及びその形成
——「善の研究」を中心に (257)

二等賞

- 刘 峰 北一輝におけるアジア主義及びその変遷 (291)

二等賞

- 李斌瑛 武士の「諫諍」に関する一考察 (335)

- 2010 年『中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテスト』入賞者 (373)

- 2010 年『中国日本学研究「カシオ杯」修士論文コンテスト』審査員 (376)

言語研究部門

トコロヲの文法化

陳燕青

目 次

第1章 はじめに

- 1.1 文法化
- 1.2 意味拡張モード
- 1.3 格
- 1.4 研究対象と研究目的
- 1.5 本論の基本的な構想

第2章 トコロヲに関する先行研究

- 2.1 名詞トコロに関する先行研究
- 2.2 ヲ格に関する先行研究
- 2.3 トコロヲに関する先行研究
- 2.4 先行研究のまとめと解決すべき問題

第3章 トコロヲにおける空間名詞トコロの意味拡張

- 3.1 実質名詞としてのトコロ
- 3.2 形式名詞としてのトコロ
- 3.3 本章のまとめ

第4章 「トコロ+ヲ」の文法化

- 4.1 名詞句としてのトコロヲ節
- 4.2 副詞句としてのトコロヲ節
- 4.3 従属節としてのトコロヲ節
- 4.4 本章のまとめ

第5章 おわりに

- 5.1 トコロヲにおける名詞トコロの意味拡張
- 5.2 「トコロ+ヲ」の文法化
- 5.3 今後の課題

参考文献

第1章 はじめに

1.1 文法化

「文法化」(grammaticalization)とは、もともと内容語だったものが、次第に機能語としての文法的特質、役割を担うようになる、あるいは文法的項目がより文法的になる現象をいう(Hopper & Traugott1993/2003 pp. 3,5-6,河上誓作 1996 pp. 179-180,大堀壽夫 2005,三宅知宏 2005)。文法化するのは、単一語の内容語ではなく、その語を含む構造全体である場合が多い(Hopper & Traugott1993/2003 pp. 6)。

文法化は典型的には、実質的な意味が抽象化・希薄化、あるいは消失する意味的な側面である「漂白化」(bleaching)と、自立性を失い、専ら文法機能を担う要素になる形態・統語的な側面である「脱範疇化」(deategorization)という二つの異なった側面を合わせ持つ現象である(河上誓作 1996 pp. 182-183,三宅知宏 2005)。変化の過程を研究する文法化においては、形式はある範疇から別の範疇へ突然変るのではなく、どの言語にも共通して過渡的段階を経て次第に変わっていく、いわゆる「漸次変容(cline)」という概念がある(Hopper & Traugott1993/2003 pp. 9)。漸次変容とは、“ $A > A/B > B$ ”という式において、新しい形式Bが現れる場合、古い形式Aがすぐに消えるのではなく、常にA/Bという中間的な段階が存在するということである(Hopper & Traugott1993/2003 pp. 47)。

再分析(reanalysis)と類推(analogy)は文法化の2つのメカニズムである。再分析は意味であれ文章であれ形態であれ深層構造(underlying representations)を変化させ、規則の変化をもたらす。類推は、言語体系そのものや言語社会における規則の広がりを起こし、表層構造(surface manifestations)を変化させるが、規則変化はもたらさない(Hopper & Traugott1993/2003 pp. 43)。

1.2 意味拡張モード

認知意味論では最も重要な観点の一つは、意味がネットワークの形として現れることである(束定芳 2008 pp. 76)。このようなネットワークモデルの基本構造は図1のように示すことができる(Langacker 1987,1991,山梨正明 1995 pp. 181,河上誓作 1996 pp. 51)。

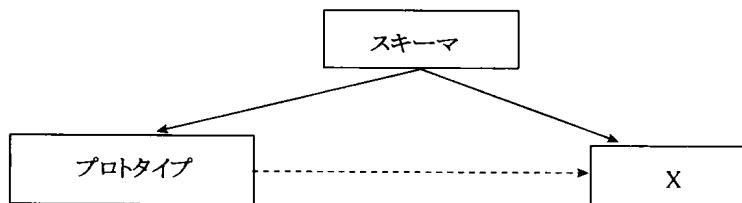


図1